

## 学生が語る全カリ

～内から見た全カリ・外から見た全カリ～

日時：2001年11月29日(木) 17:30～19:00

場所：本学池袋キャンパス 7102教室

<学生シンポジスト>

<sup>かなじ</sup>  
金治 さやかさん (日本女子大学3年次生)

<sup>いがらし</sup>  
五十嵐 大輔さん (本学経済学部3年次生)

<sup>しらおがわ</sup>  
白男川 智子さん (早稲田大学3年次生)

<sup>はさま</sup>  
挟間 彩子さん (本学コミュニティ福祉学部3年次生)

<司会者>

坂倉 祐治氏

(本学文学部助教授 全カリ総合部会専門委員)

### I はじめに

坂倉(司会) 皆さん、こんばんは。昨年の「学生による授業評価」というシンポジウムを受けまして、今年度は「学生が語る全カリ～内から見た全カリ・外から見た全カリ～」というテーマでシンポジウムを開催したいと思います。

まず初めに、全学共通カリキュラム運営センターの庄司部長からご挨拶申し上げます。

庄司 皆さん、こんばんは。今日おいでくださった学生の皆さん、ありがとうございます。昨年、全カリとしては初めて、学生の皆さんからいろいろお話を聞いてみたいということで、シンポジウムの場で学生さんに発言していただき、たいへん勉強になりました。

これまでの全カリのシンポジウムは、主として全カリの科目を提供する教員側がお互いに意見を交換するような場になっておりました。しかし、昨年、学生さんたちの話を聞きまして、またフロアからもいろいろなご意見をいただき、意見だけでなく、なかなか手厳しい批判もいただきまして、全カリにとっての課題がいろいろあることがよくわかりました。

今年、いわゆる5大学(学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、早稲田大学、立教大学)の交流ということでf-Campusが形成され、全カリにも他の大学から学生さんが授業を聴きにいらしてあります。また、その五つの大学に、さらに、立教大学と縁の深い、聖路加看護大学、立教女学院短期大学が加わりまして、合計七つの大学の学生さんがいらしていることになりま

す。全カリとしても、他の大学の学生さんたちが立教の授業に参加されてどういうことを感じておられるのか、また、このような大学間の交流を踏まえて、今後どのような方向で努力しているかなければいけないのかということ、真剣に受けとめたいと思っております。

今日はこうしてお忙しいなかをわざわざおいでくださった皆さまに、ぜひとも積極的な意見交換をお願いしたいと思っております。今日は本当にありがとうございます。(拍手)

## Ⅱ シンポジスト発題

**坂倉** それでは、初めにシンポジストの皆さんを簡単にご紹介させていただきます。

金治さやかさんは、日本女子大学の3年生で、現在、全カリその他の科目を取っていらっしゃいます。

五十嵐大輔さんは、立教大学経済学部経営学科の2年生です。

白男川智子さんは、早稲田大学法学部の3年生で、今年たくさんの科目を全カリと専門のほうを合わせて、立教で取られています。

挾間彩子さんは、立教大学コミュニティ福祉学部の3年生です。新座キャンパスと池袋キャンパスの間のギャップ、違いなどについてもおもしろいお話をしていただけるのではないかと思います。

本日の司会は、文学部の坂倉が担当

させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

会の進め方としては、最初にシンポジストの皆さんに10分程度ずつお話しいただいた後、皆さんとの質疑応答に入っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。では、初めのシンポジストの金治さんのお話を伺いしたいと思います。



金治 さやかさん

**金治** 日本女子大学の金治さやかです。よろしくお願いたします。私は人間社会学部文化学科に在籍していて、芸術や思想について専攻しています。立教大学では、前期に「宇宙の科学」と「個人と社会」という全カリの授業を二つ履修させていただきました。またいま現在、「心理学特講」の授業を履修しています。

これらの科目を履修した理由としては、今年からf-Campusという制度が始まり、せっかくなら他の大学で授業をうけてみたいという気持ち、一番強かったように思います。また、私は、日本女子大学に小学校から附属で通っていたので、共学というものを体験してみたいという気持ちもあり

ました。そういった好奇心から、f-Campus のホームページを検索して、自分で興味を持った科目をとりあえず登録してみることにしました。

先生方にはたいへん申し訳ありませんが、私が履修した理由は、そういう本当に曖昧なものでした。しかし、受講し終わってみると、よい先生方にも恵まれ、たいへんおもしろかったと思います。どれも私の専門とは異なる科目ばかりでしたが、日本女子大学では受講することのできない内容のものも多く、たいへん勉強になりました。

特に「宇宙の科学」の授業では、明らかに理系の授業のように思えたので、文系の私がついていけるのかすごく不安だったのですが、専門的な内容というよりは、とっつきやすい、身近な問題をテーマに授業が進められていたので、たいへんわかりやすく、よかったです。

私のような、立教大学以外の人間にとっては、全カリが何なのかあまりよくわからないのですが、全学科共通の科目ということで、いろいろなタイプの人を受け入れやすい授業編成がなされているように思います。ですから、私のような他大学の者でも馴染みやすい授業が行われているように思いました。

立教大学で授業を取っている日本女子大学心理学科の友人も同じようなことを言っていました。彼女は自分の専門分野である心理学の授業を前期と後期に一つずつ履修しています。一つは

全カリの授業で、もう一つは専門の授業だそうです。彼女も私と同様に、パソコンの画面上に映し出されるシラバスの内容を読んで、いまの授業を選び出して登録しました。彼女に受講した感想を尋ねてみましたが、全カリの授業はとても簡単だったという答えが返ってきました。

心理学を専攻している者にとってみれば、全カリの心理学の授業は少々物足りなかったように思います。一方、私は敢えて専門ではない全カリの授業を履修したので、そのことで、ふだん勉強しているものとは異なった新たなものごとに目を向けることができました。大学3年生にもなると、自分の専門分野で身を固めてしまいがちですが、それだけにこだわり過ぎず、柔軟な気持ちで他大学の授業を履修してみるとよいのではないかと思います。

私の通う日本女子大学では、立教大学の全カリと同様のものが展開Aとして位置づけられています。展開Aとは、どの学科の人でも自由に取れる一般教養的な科目群です。人間社会学部では文系の授業ばかりで、理系の授業が充実していません。ですから、立教大学でこのような科目を受講することができて、たいへんよかったです。

授業をうけて一番残念に思ったことは、学生同士の交流が全くなかったことです。全カリの授業は履修者数がたいへん多いように思います。そのなかに他大学から1人で受講しに来るの

は、何となく肩身が狭かったです。

一方、現在履修している文学部の心理学の授業は、受講者数は少ないものの、アットホームでたいへん楽しいです。教室に行ったときに「おはよう」と声をかける人がいるのといないのでは、大きな違いだと思います。

せっかく他大学で受講できる機会があるのだから、学生同士の情報交換がもっと活発にできたらいいなと思いました。講義形式の授業では難しいと思いますが、立教大学の学生や、そのほかの大学の学生がどんなことを考えているかを、もっと知りたかったです。

f-Campus の特性を利用して、5大学の学生が参加した演習の授業があったらおもしろいと思います。たとえばフェミニズムについての話し合いができれば、おもしろいのではないのでしょうか。女子大学では、そうしたフェミニズムなどの授業が多く、力を入れていると思うんですけども、女性側の考え方しかできずに、偏りがちになってしまう危険性を孕んでいます。そこで、f-Campus を利用することで、男性の見解を知ることができたり、共学に通う女性がどのような考え方を持っているのかということにも、たいへん興味があります。女子大学に通う者としては、そういったものにたいへん興味を持ちます。

f-Campus の制度は、まだ導入されたばかりで、今後、授業数も増えていくであろうし、もっと気軽に他大学の授業を受けることができるようになっていく

ていくと思います。立教大学では、f-Campus に対して独自のシステムを導入しており、非常に力を入れているように感じられました。特に私が感動したのは、特別聴講生として立教大学のオリジナル学生証を作っていただいたということです。学生証を持つことで、立教大学に通っているんだという自覚がわきます。自分の存在を証明してくれるものの意義を、改めて考えさせられました。

学生証を使う機会を考えると、図書館を思い出すんですけども、立教大学の図書館を、私も何回か利用させていただいています。カードがないと図書館に入れないということは、しっかりした管理体制が感じられます。私の大学では、学生証の提示なしに自由に出入りができてしまいます。他大学の図書館を利用可能であることは、たいへん便利であると思います。しかし、欲を言うのならば、貸し出しもできるようにになるとたいへんありがたいです。

また、立教大学のホームページは、非常に充実していて、時間割やシラバスなどがたいへん見やすいと思いました。けれども、やはりシラバスだけではその科目を十分知ることはできないと思います。他大学に授業をうけに行く時には、その先生の顔すら、私たちは知りません。ですから、一度、実際の授業をうけてみてから履修登録ができるようになるといいな、と思います。登録してからの変更はきかないので、

授業が始まってみないと、本当に自分が思っていたような内容なのかもわかりません。それはたいへん大きなリスクを背負っているように思います。

今回のシンポジウムのために、f-Campus を利用している学生の話を知りたいと思って、私の周りで探してみましたが、私の通う人間社会学部は目白ではなくて川崎市の西生田にあるので、f-Campus を利用している友達がありませんでした。目白キャンパスに通学している人だったら、相互の大学も至近距離なので、もっと気軽にf-Campus を利用できるのではないのでしょうか。

今後、大学間の授業交換がいつそう活発になり、学生の視野が広がるきっかけになっていったらいいと思います。また、学生同士の新たな出会いの場になっていくことに期待したいと思います。ありがとうございました。(拍手)

**坂倉** ありがとうございます。たいへん中身が詰まっていました。後でたくさんの論点が出てくるかと思えます。それでは、2人目のシンポジスト、五十嵐さん、お願いします。

**五十嵐** 立教大学経済学部経営学科2年の五十嵐大輔と申します。今日はこのようなシンポジウムに参加させていただいて、本当にうれしく思います。今日のテーマは「内から見た全カリ・外から見た全カリ」ということで、私

が見た立教大学の全カリで、気づいた点などを簡単にお話した後、f-Campus で他大学へ行ったときのエピソードを簡単にお話したいと思います。



五十嵐 大輔さん

そこで、「内から見た全カリ」ということですが、自分の意見としては、全体的に全カリの内容が少し時代遅れというか、現代の最新の情報、内容に合っていないのではないかと思います。

友達などの意見を聞きますと、やはりカリキュラムが明確でないということが多く聞かれました。授業の進行計画がきちんと立っていないという話や、私と同じ意見なんですけど、全カリの内容もまた時代遅れであるという話が聞けました。全カリというものを、簡単にとれる授業と考えている人も多いんですが、なかには、もう少し難しくしてほしいという変わった意見もありました。でも私は、単位はとりやすいほうがいいと思います。

次に、f-Campus での話をしたいと思います。なぜf-Campus に行こうと思ったかといいますと、何といても

初めての企画ということで、私の好奇心をくすぐられたというのが正直なところ。自分の興味のある内容の授業を選んで登録しました。

f-Campus の目的、第一の目標は、私の場合、友達を作るとか、知り合いを作るとか、そういった交流を目的としたものではなく、他大の学生の中に自然に交じって授業を受けて、授業内容やその大学の校風を感じてみたい、と思ったからです。これが第一の目標だったのですが、さすがに女子大では、自然に交じるということはちょっと無理がありましたね。

なぜ女子大へ行ったかといいますと、やはり女子大に対して、男子はあこがれみたいなものを持っているわけです。もし登録したら、女子大に行けるのかなと思って登録してみたのですが、その結果幸運にも、日本女子大学と学習院女子大学で履修させてもらえることになったんです。

それでは、私が f-Campus でとった授業の内容と大学の名前をお知らせして、その後にエピソードなどをお話したいと思います。

まず早稲田大学には、私が経済学部経営学科ということで、「貿易論」を申し込みました。それで受かったのですが、早稲田大学での「貿易論」という授業の内容は、このぐらいの教室でおこなわれる講義形式の授業で、OHPなどを用いて授業をする形式でした。とても人気のある授業のようで、学生がたくさんいて、かなり席が埋まって

いました。そこで一番驚いたのは、学生がたくさんいるにもかかわらず、授業中は一言もおしゃべりがなかったということです。これには驚きました。立教はどうかというのは、ご想像にお任せしますけれども・・・先生の講義内容も、とても充実していきまして、たいへん興味深い講義でした。

早稲田大学について、その後の感想としては、早稲田大学へ行ってやはり一番驚いたことは、下駄を履いている人がいなかったことです。下駄は早稲田大学の名物だと私は思っていたものですから。もうそういう学生はいなくなっただけでしょうか。

貿易論の授業の後は、早稲田大学に通っている高校時代の友人と早稲田周辺のおいしいお店などに一緒に行って食事をしたりして、本当に楽しく、充実して過ごせました。そのような事が早稲田大学へ通わせていただいた時の思い出です。

次に、日本女子大でのエピソードをお話したいと思います。日本女子大では、全カリのような内容ですが、「遺伝子の科学」という授業をうけさせていただきました。その授業内容は、かなり専門的なお話が多かったのですが、その後に、ビデオを見たりして、そのビデオの内容がかなりわかりやすく、解説されていたので、たいへん理解が深まりました。実際に学生の遺伝子を試験管内で培養したりして、たいへん興味深かったです。

最初に日本女子大学に行ったとき

は、本当に筆舌に尽くしがたい感動を覚えました。なぜかといいますと、本当に女子大学というのは、女子学生が多かったからです（笑）。女性ばかりでした。私がとった授業でも、女性が100人に対して男性が3人という割合で、男性の人数の割合がたいへん少なかったのです。初めは3人いましたが、その後、1人来なくなってしまい、私と2人になってしまいました。

さらにそこで少し悲しかったことは、授業を受けていまして、私は女子学生に交じって会話をしたりということとはしなかったのです。ですから、ポツンといたのですけれども、たいへんショックでしたね。どこがショックかといいますと、授業前に早く来てある席に座って待っていると、その周りに女子学生が寄ってこない。いわゆるドーナツ化現象というやつです。そういったものが見受けられまして、たいへん悲しかったですね。その後、毎回行くうちに次第に慣れてはくるのですが、やはりコミュニケーションということはあまりしませんでした。

次に、現在通っている学習院女子大学では、1年生から4年生まで取れる「国際経営論」という経営に関する授業を受けさせていただいています。この授業は、全員にレジュメが配られて、それに先生の言うことを書き足していくという、なかなかユニークな授業でした。私はそういう授業が好きなのですが、ここでは女性の人数が50人ぐらいで、男性は私1人という、すごい

状態でした。

恥ずかしかったのは、私が男性1人ということで、先生が授業中に突然「君、どこの大学から来たの?」と聞かれたので、「立教です」と答えると、先生は大声で「立教から来てくれました、皆さん、拍手」。パチパチパチ。もうたいへん熱烈な歓迎を受けまして、かなりうれしかったし、恥ずかしかったです。

これも一つのエピソードですが、授業後に先生が自ら私のところに来られて、「わからないことがあったら何でも聞いてね」と優しく気づかっていたいただいたのには、本当に恐縮しています。

学習院女子大学では、学食も利用させていただきましたが、そこで、せっかくだから、隣の席の女子学生に話しかけてみたのです。ちゃんと淡々と答えは返してくれます。ですから、優しいと感じました。それで初めて、私は学習院女子大学は短大だと思っていたんですけれども、4年制大学だということがわかりました。女子大の雰囲気も、やはり大学ごとに校風といえますか、そういったものがみんな違うんですが、落葉の舞う木陰で読書する女子大生というのは、とても絵になるなああと一人で感動しています。

女子大学で共通して言える感想は、授業を受ける男性の人数が少なかったということ。これはちょっと変えてほしいところですね。そうすれば、もっと気楽にコミュニケーションが図れた

かもしれません。

まとめとしては、f-Campus のような制度を通じて、これからも大学間の交流が盛んになるのはとてもいいことだと思いますので、今後に期待したいと思います。

以上で終わります。(拍手)

**坂倉** ありがとうございます。f-Campus を始める際に、たくさんの先生方が女子大で学ぶ男子学生のメンタルケアが必要なのではないかという心配をされていたようですが、いまのお話を聞く限り、そういう必要はなかったと確信を持つことができました。

それでは、白男川さん、よろしくお願いたします。



白男川 智子さん

**白男川** 早稲田大学3年の白男川です。今の五十嵐さんの話を聞いて、日本女子大のなかで笑っている五十嵐さんを想像すると、すごく微笑ましいです。私は前の2人みたいにしっかりとした準備もしていないので、10分も話せるかどうかわかりません。

まず、なぜこの場にいるのかというと、後期に「メンタルヘルス」という

授業を取っていました。その授業を受けて帰る時に、私は次に早稲田で用があったので、すごく急いでいたところ、先生に呼び止められて、「シンポジウムがあるので出てくれないか」と言われました。「私は、そんな人前で話すなんて無理です」と言って断ったんですが、さすがに心理学の先生だけあって、言い方がすごくうまいんですね。さすがだなと思って。どうしたかというところ、カッとつかんで「『うん』と言うまで帰さない」。私はすごく急いでいるのに、えっ、そんなと思って、それで簡単に引き受けてしまって、いますごく緊張して困っています。

今年からf-Campusが始まって、すごく興味があって、何と前期・後期合わせて6科目もとってしまいました。前期にこちらでは「社会心理学1」と「心の思想」、新座キャンパスの方で「セクソロジー」という授業をとって、今は「メンタルヘルス」と「心の科学」、新座の方で「国際観光論2」という授業をとっています。

どうしてf-Campusを利用して立教で授業をとったかということ、いま早稲田では法学部なんですけど、突然話が変わってしまって申し訳ありませんが、昨年、父が癌で闘病生活をしていて、治療のときにすごく心がないがしろにされていることをひしひしと感じて、こんな医療ではダメなのではないか、もっと心を大切に、体を治さなければいけないのではないかと思ったんです。そこで突然、心理学というもの



に目覚めたというか、すごく興味がわいて、心理学を学びたいと思ったんです。

早稲田大学では全カリみたいなのは一般教養、パンキョウという授業です。そういうものは一応ありますが、やはり心理学はすごく人気で、しかも3年生は科目登録のときに順位がいちばん最後なんですね。だから絶対取れないんです。人気の授業は、くじ、抽選に外れてしまうんです。だから、絶対取れないんです。そうしたら、すごくラッキーなことに、偶然、f-Campusが始まったので、心理学が学べるところで授業を取ろうと思って、申し込みました。通学の関係と、そして、面倒くさがり屋ということもあって、立教でこんなにいっぱい取ってしまったんです。

授業をうけてみての印象は、先ほどもお話にありましたが、少し私語が多いのかなという気がします。しかも、そんなにつまらない授業ではないのに、全然関係ないことを話している人がいて、何でなんだろうと思いました。私はたまたま自分がすごく興味があって受けていたから、おもしろいと感じただけなのかもしれませんが、そういうことがありました。

あとは、校舎がすごくきれいで、しかも古い伝統がある感じなのに、なかに入ってみるとハイテクだったりして、新しいものと古いものがきれいに融合しているなという印象を受けました。

早稲田も、さすがに今は下駄とか履いている人はいないんですが、確かにポロシャツをGパンのなかに入れて歩いている人も少なくなってきました。それでも立教に来ると、ああ、みんなオシャレだなと思って、私も、よし、今日は立教の授業だというと、しっかりしなきゃと思って朝出てくるんです。

あとは、先ほども話のなかにもありましたが、やはり他大に一人で来ているので、別に友達と示し合わせて同じ授業を取っているとか、そういうことではないので、学生との交流がなくて、一人で来て一人で帰るというのがすごくさみしいです。友達がいたらすごく楽しいのになと思いました。

f-Campusで公開されている授業は、可能性としては、五つの大学の学生さんがいるわけで、早稲田と立教だけでなく、日本女子大や学習院の学生さんもいらっしゃるわけで、ほんとうはすごくいい機会なので、もしそういうことが活かせるシステムが何かあるのだったら、おもしろいなと思います。五十嵐さんが先生に「困ったことがあったら何でも言ってよ」と言われたというのは、私はそれはすごくうらやましいなと思いました。テストのこととか、授業のこととか、やはり少しずつ違ってきます。そういうことでわからないことが多いので、一言声をかけていただけると、すごく安心するのではないかと思います。

次に、他大の授業を取ることのメリ

ットやデメリットについて、話したい  
と思います。この制度は、私はすごく  
いいものではないかと思ひます。私の  
周りでは、みんな全然取っていなかつ  
たんですが、他の大学の授業をただで  
受けられるなんて、すごくラッキーな  
ことだと思ひ、勉強できる学問も、  
私みたいに法学部にいても心理学の勉  
強が少しできるとか、そういう意味で  
も可能性が広がるし、すごくメリット  
としては大きいのではないかと思ひま  
す。

デメリットは何かという、やはり  
いちばん実感したのは、ネットワーク  
というか、友達がいないので、テスト  
前や授業をどうしても休んでしまつた  
ときなど、それを埋めるときに大変だ  
ということです。

印象というか、前期に取っていた授  
業で、すごく感動したことがあります。  
私は前期、人生についてすごくいろ  
ろ悩んでいたんです。心理学を本当  
にやろうとかが、将来のこととか、い  
ろいろなことがあつて、すごく悩んで  
いたんですけれども、前期に取って  
いた心理学の先生のところに相談に行  
ったら、他大生なのにすごく親切に  
してくれて、研究室まで遊びに行つて  
しまつて、本当に本当に親切にしま  
されました。その方だけかもしれない  
ですが、立教の先生って、いい人だ  
なとすごく感動してしまいました。

こんなところで許してください。  
(拍手)

坂倉 貴重なお話、ありがとうございます  
いました。立教はそんなにいいところ  
だったのかと気づかされたところもあ  
りましたが、では、4人目の挟間さん、  
よろしくお願ひいたします。



挟間 彩子さん

挟間 立教大学3年の挟間といひま  
す。立教大学と言うと「ああ、あの池  
袋のね」と私はよく言われます。でも、  
私はそこで「いや、新座、埼玉県なん  
だけど」ということを、プライドもあ  
るんでしょうが、なかなか言えませ  
ん。f-Campusについては、先の3人  
の方がおっしゃってくれたので、私  
は立教のなかでの池袋キャンパスと  
新座キャンパスの違いについて、少  
し話してみようと思ひます。

まず、私が池袋キャンパスに来るこ  
とは、ありません。それはなぜかと  
いうと、全カリの池袋の授業を履修  
しても、新座の学生は単位にならない  
からです。不思議ですよ。f-Campus  
だと認められるのに、自分の大学な  
のに、池袋キャンパスは認められ  
ない。私は全カりはすべて新座で受  
けて、池袋のものは、単位にもな  
らないのにという少し怒りもあり  
まして、うけませんで

した。だから、池袋に来たのは、入学式と、あとは図書館で少し調べものをするぐらいなので、池袋は今だに謎のところが多いです。

新座の全カリでは、まず授業科目数がすごく少なくて、みんなとるものは決まっています、本当にみんな同じような時間割になってしまいます。だから、もう少し授業科目数を増やして欲しいんですけども、なかなかあまり増えにくれません。

全カリは1・2限とか、午前中の授業が多くて、それで全カリは、私は1年の時にすべてとったんですけども、1年生の時は、必修科目の言語というものがありまして、その言語と重なって、おもしろいものが取れなかったりしました。じゃあ来年とろうと思ったら、翌年はそのおもしろい全カリの科目の時間が変わっていて、今度は専門科目と一緒にあってとれなくなっていたり。じゃあ再来年取ろうと思ったら、その時にはもうその科目はなくなっていました。だから、本当にとれる科目に限られてしまうところが少しさみしいと思います。

何だか立教大学生ではなくて、「新座大学生」という感じで、いやなんです。

少し全カリのことは置いておいて、新座のことについて話しますと、私は池袋に来る時、図書館だけを利用するんですが、その図書館に来るのもすごく緊張してしまいます。なぜかという、新座の方は、女の子と男の子の比

率が7対3ぐらいなので、ほとんど女子大に近い感じなんです。だから、こちらに来ると、今時の若者だなあという男の子とか女の子がけっこういるので、私もスニーカーを履かずにちょっとヒールを履いてみたりして来ます。

だから、私としては、f-Campusも取ってみたいとは思っています。私はコミュニティ福祉学部にいるので、心理の勉強をしているんですが、その前に、池袋の心理もとってみたい。他の大学のものもとってみたいと思うんですけども、やはり時間の都合もあったり、自分に甘いところもあって、結局は行かずに、4年間ずっと新座だけで過ごすような気がしています。

先に話してくれた3人の方のお話を聞いていると、ああ、おもしろい授業もけっこうあるんだとか、他大の人に優しくしてくれる先生方もいらっしゃるんだなと思いました。私はなぜか新座がアットホームなので、そういう点では恵まれているとは思いますが、池袋の方は、知り合いがいないというのもあって、冷たい印象を受けました。

全カリと言わず、まず新座の立教生にも、池袋の授業を単位数として認めてもらいたいです。やはり単位として認められると、その分、やる気もわいてきますし、自分に興味があったら、出席をとらなくても出席したくなるような感じになるのではないかと思います。

全カリについては、科目数が新座は少ないと言いましたけれども、3年次にとるようなものがなくなってしまったので、その分、今度からは池袋とか、f-Campusもできたら利用してみようかなと思います。その前に、皆さん新座の方にも来てみてください。スニーカーで結構ですから。これで終わります。ありがとうございます。(拍手)

**坂倉** ありがとうございます。武蔵野新座キャンパスの所属の学生さんにはたいへん不自由な思いをさせてしまっているということが、よく伝わってきました。実は、新座の学生さんが池袋キャンパスの授業を履修しても単位にならなかったというのは、立教大学が決めている制度ではありません。簡単に説明したほうがよろしいでしょうね。

このことは、観光学部とコミュニティ福祉学部を創った時に遡るのですが、新しい学部を創るには当時の文部省に設置の申請をし、許可を得ることが必要でした。その際に武蔵野新座キャンパスで卒業に必要な科目がすべてできるようにということが言われました。

ただし、来年以降に入学する人は、池袋の科目をとって卒業単位にすることができるようになります。というのも、新しい学部を設立して4年間が経つまではカリキュラムの変更は認められないのですが、その後は実績をもとに改善していくことができるようにな

るので、観光学部とコミュニティ福祉学部は専門科目の検討を行い、同時に池袋の科目も卒業単位とすることができるよう規定を変更することになったからです。

## Ⅲ 質疑応答

**坂倉** それでは、フロアの皆さんのお話もお伺いしたいのですが、その前に簡単にシンポジストのなかで、少しお話ができたと思います。どうでしょう。4人の方のお話を聞いていて、おそらく共通で出てきたのが、学生交流というところではないかと思えます。

五十嵐さんは、初め、必ずしも女子大の友達が欲しくて女子大に登録したわけではないのだと言われましたが、自分の周りにドーナツが生じているのを見ると非常に悲しい思いをされた。学食でちょっと話してみると楽しかったというお話でした。金治さんと白男川さんも、せっかく立教に来たのに、同じ授業に出ている立教の友達がなかなかできなくて、ちょっと苦労したというお話でした。

そのあたりはどうでしょう。たとえばどんな工夫をすると、その点がもう少し楽になるのでしょうか。たとえばわれわれ教員がこういうことをしてくれたら、もう少しうまくいくのということが何かあったでしょうか。

**白男川** f-Campusで認められている授業は、大人数のものが多いい

ます。それは、立教の学生さんでも、少人数の授業はあまりないので、他大に開放するものとしては、大人数のものになってしまうのは仕方がないかもしれません。

おそらく個人の努力の問題で、私がきくとガンガン話しかければ友達とかはできるとは思うんです。それを立教の授業のせいにするつもりはないんですが、ただ、前期に取った授業のなかで、すごく大人数なんだけれども、一つの問題をグループに分かれて話し合ってみるという授業があったんです。そのように、授業中に少しでも話す機会があれば、授業の後でも話しやすいのではないかというのがあります。

**坂倉** そうすると、少人数の授業をf-Campusに開放したらどうかという提案が一つ。金治さんから、ゼミ形式で5大学の学生が一つのテーマについて、たとえばフェミニズムなどの問題について議論するような授業があったもいいのではないかという提案がありましたね。それが一つでしょうか。

もう一つは、講義のなかでも、ディスカッションのようなものを取り込んでいくような授業展開にすると、雰囲気少し変わってくるのではないかと、ということでしょうか。

その他、何か付け足されるようなこと、この4人でお話ししたいことはありますか。よろしいですか。

それでは、続いてフロアの皆さまか

らの質問を受けたいと思います。一問一答形式で答えていくと、おそらく時間がなくなってしまうと思いますので、こちらのほうで質問を引き取らせていただいて、整理して、シンポジストの方にお答えいただこうかと思います。ご発言の際は、所属とお名前をおっしゃっていただければと思います。質問がある方、手を挙げてください。

**質問1** こんばんは。立教大学経済学部経済学科のAと申します。私も皆さんと同じようにf-Campusをとらせていただいています。私がとっているのは、日本女子大学で「食生活論」、学習院大学で「数学講話」と「金融工学」、早稲田大学で「会計学」、上限12単位を全部とっています。

そこで、一つ五十嵐さんにお伺いしたいんですが、早稲田大学で「貿易論」、学習院大学で「国際経営論」を取っていらっしゃるということですが、立教大学の経済学部にも同じように「貿易論」と「国際経営論」という名のついた科目があります。それを他大学で取ったという意味が、何かあるのでしょうかということ、まずお伺いしたいというのが、一つ目です。

もう一つは、f-Campus 自体についてお伺いしたいんですが、私もこのようにf-Campusをとってしまして、そこで少し二つほど不便を感じたことを申し上げたいんです。

一つは、休講情報。日本女子大学は、休講情報がわりと出ていて確認しやす

いんですが、学習院大学は、2度か3度ほど、目白の方へ行ってようやく休講情報を確認したり、立教の方で確認できなかったりしたということが何度があったんです。そういう意味で、休講情報を5大学のなかで徹底していただきたいなと思いました。

もう一つは、先ほどの交通が不便だとか、都心に来る制約があるということに関係するかどうかわからないのですが、定期券の発行というのをお願いしたいと思うんです。法律的に発行できないのかどうかわからないのですが、私も他大に行くので交通費がかさんだりするものですから、学割定期を発行していただけたら非常にありがたいなと思いました。以上、二つのことを申し上げさせていただきます。

**坂倉** そのほか質問、あるいは全カリに対する意見、ご要望などでもよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

**質問2** 立教の日本文学科のBといいます。いまのお話というよりは、全カリに対する意見ですが、先週、文学部のなかで集会があって、そこで出た話に全カリに関係する話もあり、私も確かにそうだなと思ったことがあったので、お話ししておこうと思います。

まず一つ目は、掲示についてです。8号館の1階に電光掲示板ができ、近々5号館にもできるという回答でし

たが、それはあまり混雑の解消につながらないと思います。というのは、今までは学部の掲示板ごとに掲示が出ていたんですが、私の仲間などと話していると、その掲示板もエクセルのすごく小さい文字になってしまった。その前はわりと大きい字で手書きで掲示が出ていて、あれがいちばん見やすいという意見が出ました。教職課程などは、まだ張り出し掲示をしてくれて、非常に見やすい。教務課の人にお手数をかけてしまうかもしれないんですが、張り出し掲示をぜひやっていただきたい。エクセルの小さい字だと、掲示板の前に、休み時間など人がたかっている、結局、それでなかなか見ることができなくて、授業にも遅刻してしまうという悪循環を生じさせていると思います。

また、8号館の電光掲示板は、私は文学部の学生なので、日本文学科と文学部とあとは全カリのものがあればいいんです。他学部の授業の情報は必要ありません。それに、すごく先の日程まで出るので、来たときに先の日付になっていると、今日の分になるまで待たなくてはいけない。あそこの下で滞ってしまう。それが一つ。

あとは質問ですが、自由選択の語学の単位が1単位なのはなぜかという質問です。なぜそう思ったかということ、大学に入って、今は国際化の時代で、中国語をもっと勉強したいとか、英語を勉強したいという声は、仲間のなかからでもすごく聞くんですが、卒業す

るのには、やはり単位を取らなければいけないですね。そうすると、1単位ずつでやっていったら間に合わないんです。小学校みたいにみんなが学校の近くに住んでいるのであれば、1・2限から9・10時限までばっちり入れていても大丈夫でしょうが、50km、60km 圏内から通っていて、そういうこともできません。そうすると、やはり2単位の科目から入れていくしかないと思うんです。

語学をやる気はあるのにとれないという現状があるので、その点について、法的に定められて1単位なのかどうか分からないのですが、改善できるのであればお願いしたいと思いました。以上です。

**坂倉** ありがとうございます。では、ほかに。

**質問3** 立教大学文学部教育学科2年のCです。今回のテーマは「内から見た全カリ・外から見た全カリ」ということですが、私はテーマと関係ないことをお願いしたいんです。ご了承ください。

全カリでぜひ開講していただきたい授業があります。私は第二外国語でロシア語を選択しています。2年間教えていただいている先生の授業で、言語だけでなくロシアの古典文学や現代文学、現代ロシアの社会情勢など、たくさんのお話をさせていただきました。それで、ぜひ言語だけでなく総合科目でも

教えていただきたいと思います。

先生の方も、もしお話があれば考えますと言ってくさっています。ただ、言語を担当されている先生が総合科目を担当するのは難しい、という話を聞きました。学生が希望していることを先生が受け入れてくれる可能性があるのに、それがシステムとして阻まれてしまうのは、とても残念だなと思います。

私だけでなく、一緒にロシア語を勉強しているクラスの人も、みな先生に総合の授業を担当してほしいと思っています。ぜひ前向きに検討していただけないかと思います。

**坂倉** そのほか、ありませんか。

**質問4** 立教大学文学部キリスト教学科3年のDです。

f-Campus のことで、少し報告みたいなことをします。自分も授業をたくさんとっていて、早稲田大学に2コマ、学習院大学に1コマ、f-Campus で行っているんですけども、自分なりにいい点と悪い点、改良すべき点を見つけました。

立教大学は単位に上限がありますよね。f-Campus は上限にひっかからなくて、年間に12単位も取れるので、そこはいいと思います。

あと、単純に授業の幅が広がるというのもあるし、勉強以外でも他大学の様子などもわかるから、すごくいいことだと思いました。

少し改良したほうがいいと思った点は、立教大学でも秋休みというのがありますが、休みの期間についてはやはり大学ごとにすごく不明瞭です。ネットでしか手掛かりがないので、それで調べても、その大学のネットのすごく深いところまで入らないと、大学の年間行事みたいなのところまでわからない。ネットの方で、たとえば休講情報にしても、5大学まとめて同じところに示すとか、休みについても5大学いっぺんに表のようにして掲示してあるかと思うと思います。

あと、友達があまりできないとか、交流しにくいという意見もありましたが、自分も三校に行っているんで、それはわかるんですが、でも、逆にその孤独を楽しむみたいな気持ちで行ったらしいかと思うんです。

それから、立教のネットについてなんですが、立教の休講情報は、公式サイトでは見られないですね。たとえば立教の非公認のサイトだったら、立教の休講情報が見られたりするんです。公式サイトでもそういうものが見られるようにしたほうがいいのではないかと思いました。

でも、全体的に大学の垣根が低くなって、自由に行き来できるのはやはりいいと思うし、あとは掲示とか休みの掲示をはっきりさせれば、特に制度的には難点はないと思います。だから、こういう制度はどんどん発展して欲しいかと思っています。以上です。

**坂倉** ありがとうございます。そのほか。

**質問5** 経済学部の教員の藤原です。司会の坂倉先生と同じ立場で、全カリの運営にもかかわっておりますけれども、シンポジストの方々に少し伺いたいことがあります。

先ほど五十嵐さんから、全カリの授業はどうも内容が時代遅れではないかという、多少ショッキングなことを伺いましたが、具体的にどういうことなのかもう少しお話をしていただきたい。

他のお3方には、挟間さんは立教ですけれども、他の大学の授業も受けているということであれば、立教の全カリを受けたときに、自分の大学と比べてどのような印象を持たれたかどうか。あるいは、それ以外に、私語が多いという、これまた非常に恥ずかしいご指摘がたくさんあったんですけれども、自分の大学の教養関係の科目と何か授業の雰囲気とか内容で違いがあるのかどうか、といった印象を伺いたいと思います。

**坂倉** ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。時間が限られていますので、いったんこのあたりで皆さんからの質問を打ち切らせていただいて、少し整理をしながらお答えいただきたいと思っています。

まずシンポジストに対する質問とし



てありましたのは、五十嵐さんに対して、立教にあるような、経済学部の専門に近い科目をわざわざ他大学で受けた意図は何なのかという問題と、いまの藤原先生からの、時代遅れだということについて具体的な例があれば示してほしいという、この2点について、簡単にお答えいただけますか。

**五十嵐** まずなぜ他大学で立教にもある授業を取ったのかといいますと、特に深い意味はないのですが、他大における同名の授業を受けたわけは、同名の授業であっても内容まで全く同じということはありませんからです。つまり、同時に2つの授業を並行して受けることにより、さらに理解が深まると思ったからです。

藤原先生のご質問については、時代遅れということ、ちょっとひどいイメージですが、たとえば、これは友達などの意見が多かったのですが、パソコンなどの授業で、パソコンは二進法だということで二進法の計算をやらせたりしますが、そういうものよりも、いま現在のパソコンの技術とか、最新の技術をもう少し教えて欲しかったというようなことですね。

あと、時代遅れというわけではないのですが、いま最新で注目されているもので、記号学とかありますよね。たとえばそういった最新分野についても全カ力で開講して欲しい。そういった意味であります。

**坂倉** 全カ力でも、今注目されている領域を特に取り上げる時事科目という科目群など作りまして、鋭意努力しております。こういうことがあったらおもしろいのではないかというご提案などありましたら、ぜひわれわれ教員のところへ持ってきていただければ、すぐにどうなるかというのは別としまして、できる限り考えていきたいと思えます。今後もいろいろお聞かせいただけたらと思います。

あと、シンポジストの方に対する質問として、他大学のお2人に、全カ力でうけた同じようなかたちの授業がもし自分のところにあるとすると、比べてみて、立教の授業の印象はどうだったかということですが、いかがでしょうか。

**金治** 同じような授業ということに対してお答えできるかどうかわかりませんが、うちの学校にも一般教養みたいな授業はあります。やはり人気のある科目だとたくさん人が集まったりして、立教大学でも全カ力の授業にはかなり人が集まるという話がありましたが、それは似ていると思います。

やはり私が大きく違うなど思うのは、共学という点ですが、やはり男子学生が近くにいると、ドキドキしちゃうりするときもありました。

あと、立教では私語が多いというお話が先ほどからいくつか出ていていると思いますが、それはやはり私たちが一人

で、他に友達もいないなかにポンと一人入れられたら、その教室がよけいにごわごわする印象を受けてしまうような気がします。

全カリと日本女子大学の一般教養の授業とは、授業内容はわかりませんが、やはりみんなが受けられるような体制になっているところなどは、似ていると思うし、特別に変わっている点などは、私はわかりませんでした。あまりお答えになっていなくて、すみません。



**白男川** うちの大学の一般教養と比べても、授業自体にはそんなに変わりはないと思います。ただ、特にうちのパンキョウは、はやりの二極化現象が進んでいて、人気のあるところには殺到する。人気が本当にあるのか、ただ取りやすいだけなのか、よくわかりませんが、すごく集まる授業と集まらない授業があります。人が集まらない授業がどうして続いているのか、よくわかりませんが・・・。

別にこれは違う点という意味ではありませんが、やはり全カリとか一般教

養の授業は、出席を取る授業がほかの科目に比べて少し多いように思います。それが私語と関係してくるのかなという気がします。

**坂倉** いまのお話ですと、大きな違いはあまりなかったということでしょうか。藤原先生、よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、言語に関する質問が2点あったと思います。語学の単位が1単位なのはなぜかということが一点。それから、初習言語を教えている先生に、総合Aだと思いましたが、全カリの総合科目をお持ちいただけないかという点が一点。二点ありました。言語部会長の山本先生、よろしいでしょうか。

**山本** 理学部の山本です。言語のことで何か質問があるかもしれないから、出席するようにということでしたが、皆さんの話がとてもおもしろかったので、参加させていただいてよかったと思います。

さて、言語がどうして1単位かということについては、申し訳ありませんが、基本的に、言語は1単位ということが決まっております、としかお答えできません。ですから、他の大学もすべて、言語は基本的に1単位ということになっているはずです。

それから、言語を担当してくださる先生に、総合の科目を担当してもらえないかというお話だったと

思います。これは今でもいろいろな形で言語の先生に、たとえば総合 A、あるいは総合 B という科目のなかで活躍していただいている例も、いくつもあります。

ただ、学生の皆さんが希望して、先生もいいといっているからといってすぐに授業だというようには、なかなかストレートにはなりません。われわれは、やはり大学のある程度の制約のなかで、最もいいであろうという授業を学生に提供する、ということでカリキュラムを立てています。これから先、今度はロシアやアジアをテーマとするような展開があるかもしれませんので、そういう希望があるということをわれわれの方に伝えておいただければ、授業になる可能性はこれから十分あると思います。こういうお答えでよろしいでしょうか。

**坂倉** われわれがカリキュラムを作る場合、特定の先生が先に決まっています。授業を考えていくというのではなく、まず、科目のバランス、領域のバランスといった大きな枠組みのなかで考えてから、その次に担当者はどういう方がいいかというように検討をしていきます。ですから、学生さんが希望しているからということで、すぐに次の年度から科目になるかということ、なかなかそううまくいかないところもあります。しかし、われわれとしても、できる限り、学生さんの興味・関心に応えられるように努力したいと思いま

すので、ぜひあきらめないで、そういうお声を聞かせていただければと思います。

そういう皆さんの声を聞く機会が、これまでなかなかなかったように思いますので、今回のような企画を立てているところもあります。ただ、こういう企画のときに限らず、何らかのかたちで声を上げていただければと思っています。

そのほか、f-Campus についてさまざまなご要望がありました。まとめますと、休講あるいは学年暦、休みの時期であるとか、そのような点についてもう少し情報がスムーズに流れたほうがよいのではないかということですが、おそらく今ここでどうこうということではないですね。この問題は引き取らせていただきまして、なるべく早い段階で改善されるように、大学関係当局と協力して、努力させていただくということによろしいでしょうか。

あとは、f-Campus ではなくて、大学内での休講掲示の問題もありました。これも同様でしょうか。学内のパソコンからは休講掲示が見られるようになっているんですが、インターネットで入ると見られなくなっている。ところが、海賊版の休講掲示サイトというのがいくつか存在しているらしいということになっています。やはりこれは公式のものに何らかの形で学生さんがアクセスできるようにする方向とか、あるいは、図書館の目録を見る端

末にその機能を付加するとか、いくつか現実的な選択はあるかと思いたいで、こちらも関係している部署と協議しながら善処したいと思います。

今までの話を聞いて、付け加えたいということがありますか。

**家城** 理学部の教員の家城です。メディア・センター長をしているので、その立場からお答えしますが、休講情報に関しては、来年度からは正式に、立教大学の学生で、V-Campusに登録している学生は、インターネット側から見られるようになります。これは公式です。海賊版というのは、大学のなかでも問題になったので、そこは対処しています。

**質問6(藤原)** ほかになければ、早稲田の白男川さんに少し伺いたいんですが、先ほど講義が抽選で取れない場合が多いということ伺いました。実はいま立教大学では、大人数授業というのが非常に問題になっています。というのは、一部の、たとえば施設に制限があったり、演習、ゼミのような形式だったりするもの以外は、特に全カリでは人数制限をしていません。登録したい学生は登録できる。ただし、その場合には、たくさんになると教室に入れなくなるということになって、非常に学生からの不満も多い。

そこで、人数制限を何らかの形ではどうかという意見もよくいただいているんですが、その一方で、そうす

ると、取りたいと思っても、抽選に落ちてしまったら取れないという不満も出てくるであろうということで、いまわれわれは非常にそこで悩んでいます。早稲田の場合、抽選で人数制限するという点について、学生諸君はどのように考えているのか。もし学生の立場から何か感じるがありましたら、教えていただきたいと思いたいます。

**白男川** まず、教室の関係で人数制限をしなくてはならないというのは、できるなら、その教室を何とかする方向のほうがいいと思いたいます。それは確実です。私たちの大学でも、人数制限はすごく評判が悪いです。私の経験でお話しますと、1年生が優先的に取れるんですね。3~4年生になるにつれてだんだん取れなくなるんですが、1年生の時は何を勉強しようか、本当にわかっていないのに、その時に優先的に取れて、3年生で、ああ、これが勉強したいと思った時にはそれが勉強できないというのは、少し納得できません。

立教大学はわかりませんが、1年間で取れる授業数というのも、1年ごとに設定されていて、早稲田大学は履修上限単位数がすごく少ないんです。1年生の時には、32単位とか36単位とかです。2年生で38単位とか、すごく少ないなかで、抽選で落とされると、本当に学生のやる気が削がれるんですよ。それで、学生はやる気がないとか言われると、とても心外なので、大

学側は、やる気のある学生に対して授業を提供するという意味では、最大限の努力をしていただきたいと思います。

**金治** 今、白男川さんが早稲田の話をしてくださいましたが、私の大学では逆で、3年生とか4年生になると、優先的にその授業が取れるようになっていくんです。それは単位が足りないとか、そういう話になるともう仕方がないので、優先的に取らせてくれるようになっていきます。

なぜ、早稲田では3年生になると取れなくなるんですか。その理由は何ですか。

**白男川** 人数と教室の関係で、抽選という形にするのであれば、どういう形で抽選にするのか、学生の意見を聞きながら決めていったほうがいいのではないのでしょうか。一方で、3～4年生が一番優先される授業もあるし。うちはなぜ1年生が優先的に登録できるのか、本当にわからないんです。私はそれで、一次登録で十何単位取れなかったのが、本当に1年間、やる気が失せたんです。何かすごく個人的に納得できず、そこはきちんとしてほしいと思います。

**質問7** 日本文学科3年のBです。私は前期に「立教大学の歴史」という授業を取って、レポートで一般教養から全カリの流れについて調べたんです

が、教務課に行って、一般教養の最後のところからの履修要項を見せてもらったら、全カリになる前、一般教養科目は1～2年生のうちになるべく取り切れというようなことが書いてありましたが、早稲田の履修要項には、そういう記述があったりはしないんですか。

**白男川** きちんと読んでいないので、実際にはお答えできませんが、私はそういう記述を見た覚えはありません。一般教養科目だけではなくて、全部の科目について1～2年生の履修できる率が高いんです。

**坂倉** 以前、大学では、初めの2年間で教養課程、後の2年間、つまり3年・4年次が専門課程と分かれていた名残で、おそらく今の一般教養のお話になったのだと思いますが、今はそういう法的な規制はなくなりました。ですから、やはり白男川さんが言われたように、やる気のある学生のやる気を削がないようなカリキュラムの組み方、抽選をするなら抽選の仕方というものを工夫していく責任があるでしょうし、その際には、やはり学生さんと教員が協力して制度を作っていくことが大事になってくるのではないのでしょうか。

それでは、時間が若干過ぎておりますので、今回のシンポジウムをこれで終わりにしたいと思います。これ一回で終わりにするというのではなく

て、これからまた何らかのかたちで、こうした学生さんの意見を聞きながら授業を少しづつよくしていくという試みを、続けていきたいと思っております。本日はどうもありがとうございます。(拍手)

#### **Ⅳ シンポジウムをふりかえって**

まず、興味深い話題を提供してくれた4人のシンポジストに感謝したい。今回のシンポジウムを通じて、考えさせられたことは多い。

他大学の学生さんからは、所属大学の問題点が厳しく指摘されるのと並んで立教の良いところが随分述べられたようにも思える。しかし、それを額面通りに受け取ることはできないだろう。授業中の私語が多いといった改善すべき(恥ずべき)問題の指摘があった。また、シンポジウムにまで参加してくれる好意ある学生さんとは対照的に、せっかくf-Campusで立教の科目を登録しながら、履修を途中で打ち切った(不満を募らせた)他大学の学生さんの存在も忘れられない。さらには、今回聞くことのできた厳しい指摘も、決して立教に無縁なことばかりではないように思われる。とりわけ、熱意のある学生さんのやる気を削がないような大学運営のあり方を考えていくことは、我々の責務であろう。

学生さんの目線からみたときに、大学には理解しがたいシステムや決まり事がなんと多いことか。もちろん、そ

の中には、個別の大学がつくったものというよりも、監督官庁の政策に起源を持つものも少なくない。しかし、その多くは、各大学の裁量に任されるようになってきているのだから、たとえば、学習の実態に合った科目展開、単位認定の在り方を実現するといった努力を怠ることは許されまい。

大学の授業をよくしていくために、学生さんの意見に耳を傾けることが大切であることはいうまでもない。しかし、また、カリキュラムの編成、個々の授業の展開のあり方については、最終的には教員の見識によるものであろう。たとえば、立教の科目は時代遅れだという指摘もあったが、それに対しての応答も、決して一つではないと考える。我々は学生さんたちにどのような力量をつけてもらいたいと願っているのであろうか。たとえば、「実社会で役に立つ能力」を身につけてもらいたいという立場であろう。この立場からは、最新のパソコンソフトを自在に操って書類を作る能力とか、自在に外国語を操って会話する能力を磨くための科目が期待されるかもしれない。あるいは、それとは異なり、「ものごとの仕組みを見極める能力」を身につけてもらいたいという立場もあろう。この立場からは、むしろ「時代遅れ」な、作りが単純な機材やソフトがあえて選ばれるかもしれない。このように、めあてが何であるのかということに応じて、授業の評価は様々になされうる。それを特定の立場に統一しようとする

ことは、かえって大学教育の内容を貧困にしてしまうのではないかという危惧を覚える。もちろん、当該授業の目的と、それを実現するための方法（手順、手続き）の関係が妥当かということは問われるであろうし、それを学生さんが納得できる形で示していく努力が求められるであろうことはいうまでもない。

教員と学生が協力して大学を改革していくという姿勢は、「知を求める人の同業者組合」という大学の起源にも通ずるものがあるように思われる。今回の企画でついでなことなく、さらにいえば、よりインフォーマルな形で、試みが継続され、その実があがっていくことを願っている。それは、もしかしたら、「飲食を共にする」というシンポジウムの本義にたちかえることにつながるかもしれない。

(坂倉裕治)